

令和5年12月

令和5年	10月	～	12月期	実績
令和6年	1月	～	3月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

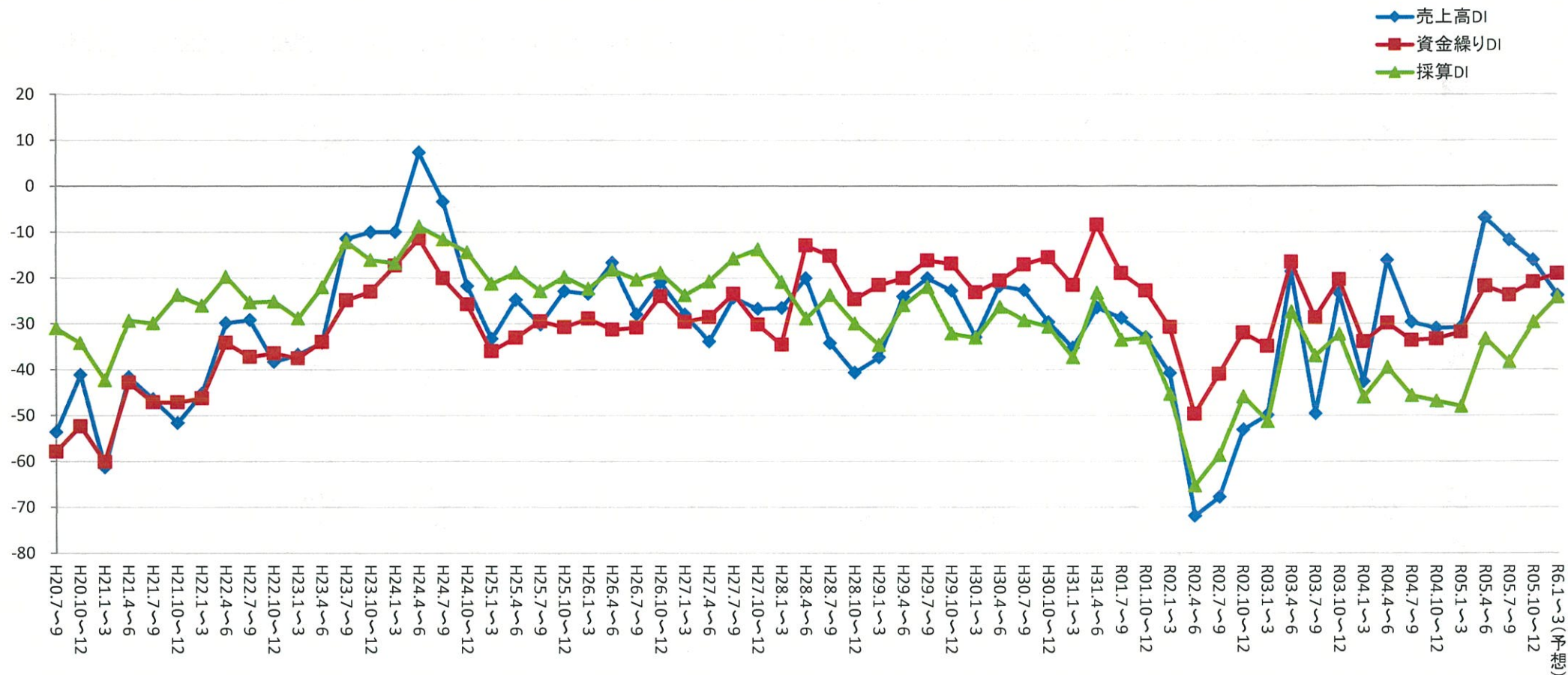
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和4年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和5年 1～3月	4～6月	7～9月	(今期) 10～12月	(見通し) 令和6年 1～3月
製 造 業	 雨	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇
建 設 業	 曇	 薄 曇	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 晴	 晴	 薄 曇	 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

小売業の売上高D・Iが大幅に悪化
建設業、製造業は改善に転じる

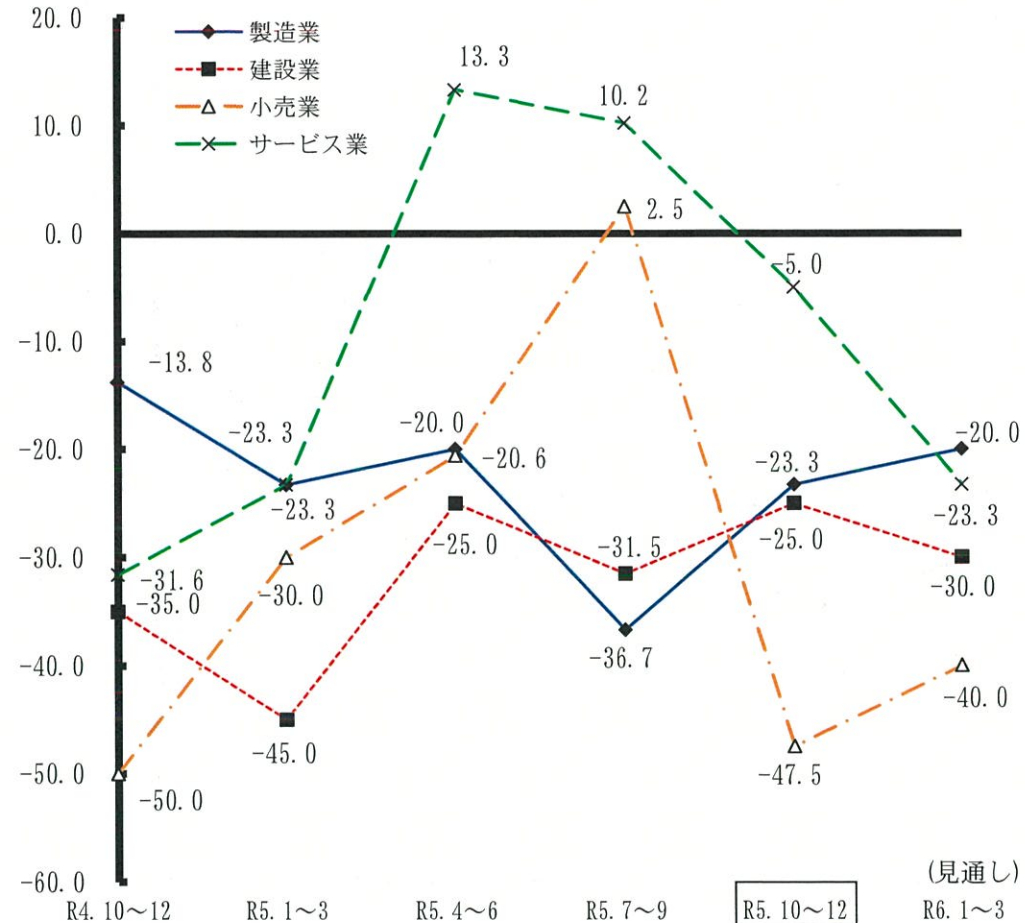
今期の売上高D・Iは、3期連続して上昇していた小売業が大幅に悪化しました。

また、サービス業も2期連続の悪化となり、マイナス域まで低下しています。建設業、製造業は改善に転じています。

小売業は50.0ポイントの大幅な低下となり△47.5まで悪化、サービス業も15.2ポイント低下して△5.0となりました。他方、建設業と製造業が上昇に転じ、建設業が6.5ポイント上昇して△25.0、製造業が13.4ポイントの上昇により△23.3までそれぞれ改善しています。

来期は、小売業、製造業において改善が見込まれるものの、サービス業は今期に引続いて悪化してマイナス幅を拡大、建設業においては再び悪化となる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

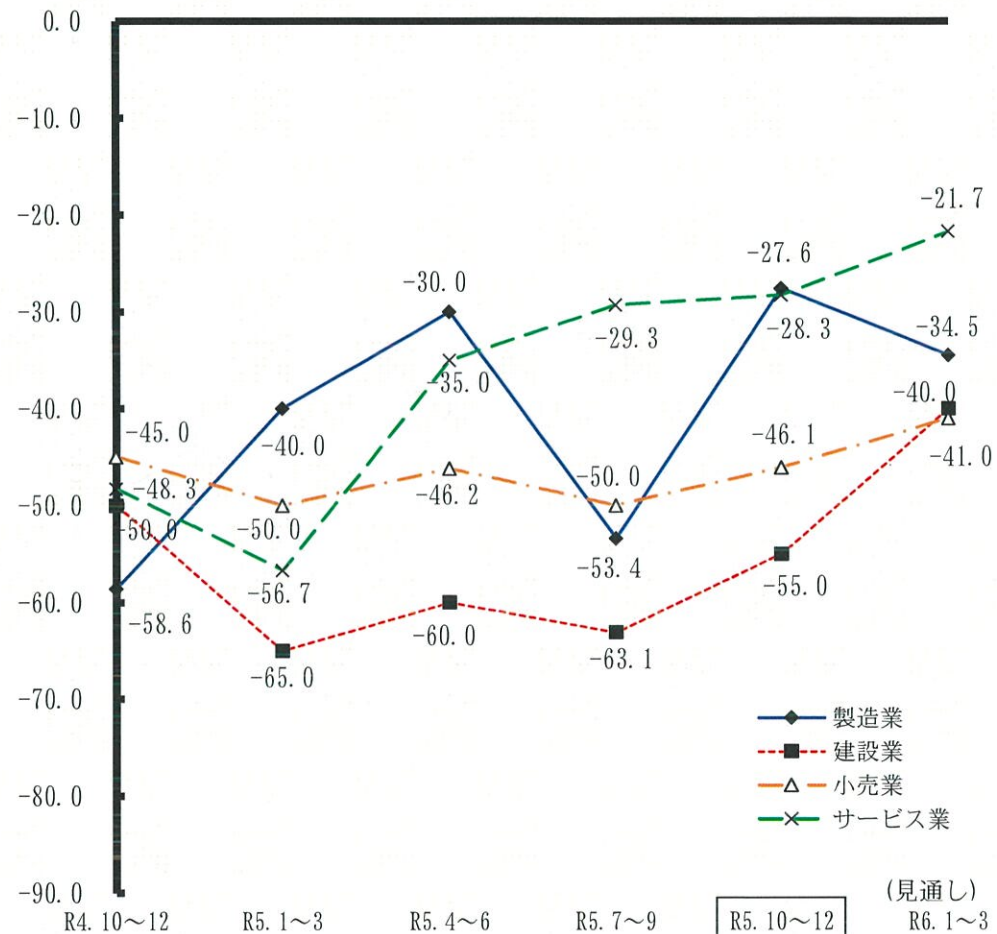
全業種において採算D・Iが改善
製造業が大幅に改善

今期の採算D・Iは、前期大幅に悪化していた製造業が上昇に転じ大幅な改善となりました。サービス業は3期連続しての改善、小売業、建設業も改善に転じています。

製造業は25.8ポイント上昇して△27.6まで改善、サービス業は1.0ポイントとわずかながら改善、小売業は3.9ポイントの上昇により△46.1まで改善、建設業も8.1ポイント上昇して△55.0まで改善しましたが、依然として低いレベルで推移しています。

来期は、今期大幅な改善がみられた製造業が悪化に転じるものの、サービス業、小売業、建設業においては2期連続して改善することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

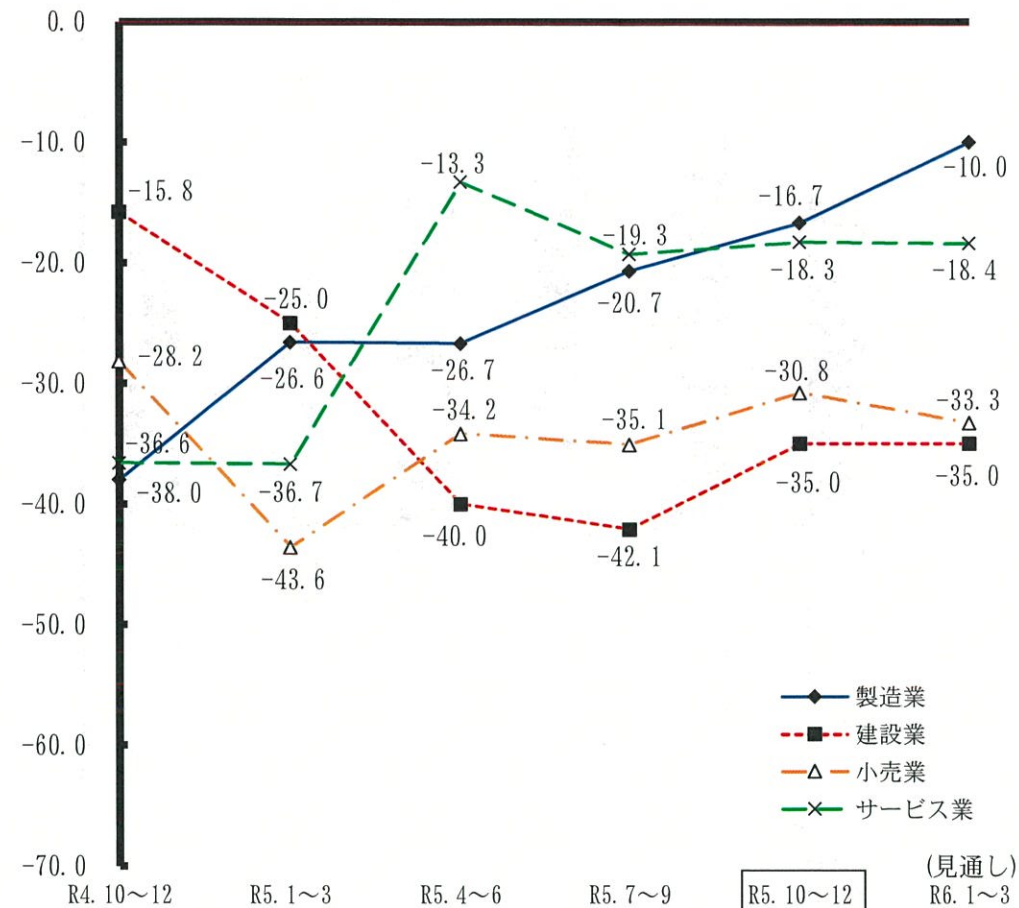
資金繰り

全業種において資金繰りが改善
製造業は2期連続の改善

今期は製造業において資金繰りD・Iが2期連続の改善となりました。また、前期悪化傾向にあったサービス業、小売業、建設業も改善に転じています。

製造業は2期連続改善となり、4.0ポイント上昇して△16.7まで回復、前期悪化傾向にあったサービス業は1.0ポイントとわずかながら上昇して△18.3、小売業が4.3ポイント上昇して△30.8、建設業が7.1ポイント上昇して△35.0までそれぞれ改善しています。

来期は、製造業において引続き資金繰りD・Iが改善することが予想されるものの、小売業は僅かながら悪化し、サービス業、建設業は横ばいとなることが見込まれています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

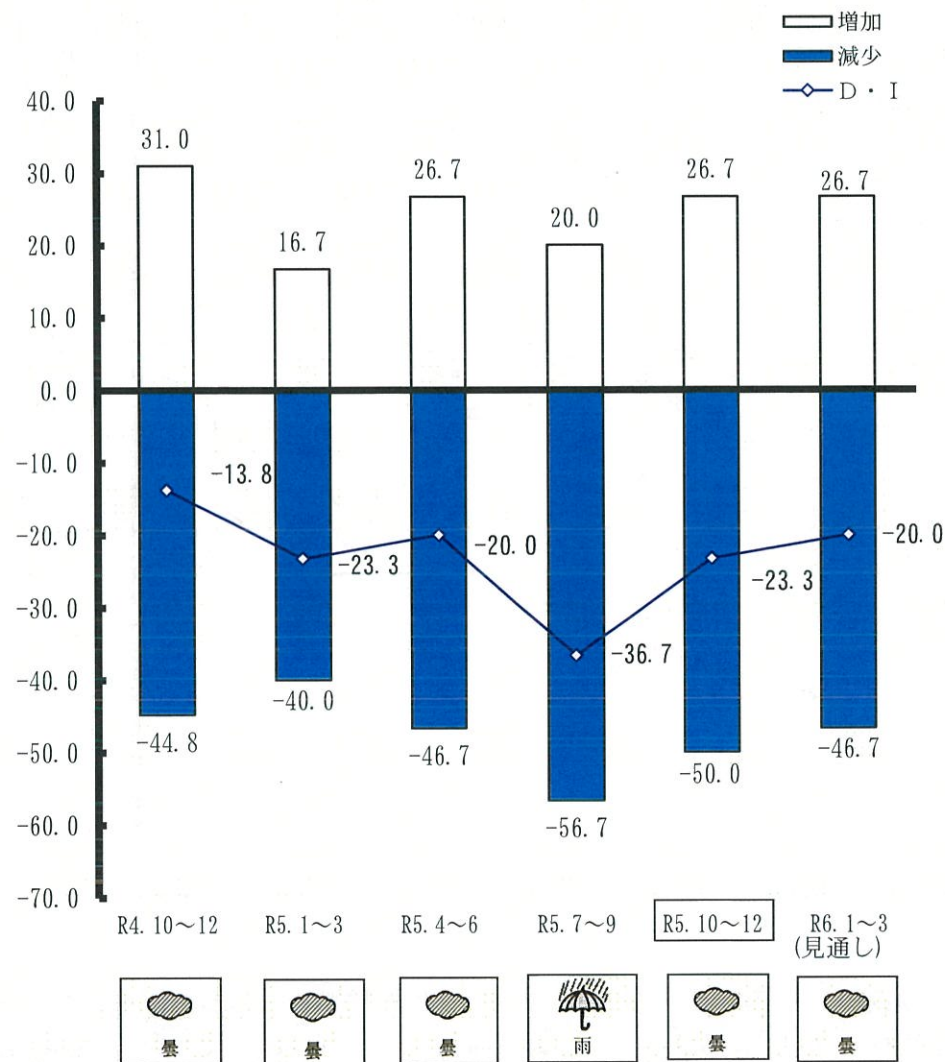


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が6.7ポイント増加し、売上高減少企業の割合が6.7ポイント減少したことから、売上高D・Iは13.4ポイントの上昇となり△23.3となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業割合が減少することから、売上高D・Iは引き続き上昇する見通しです。



採算

<今 期>



曇

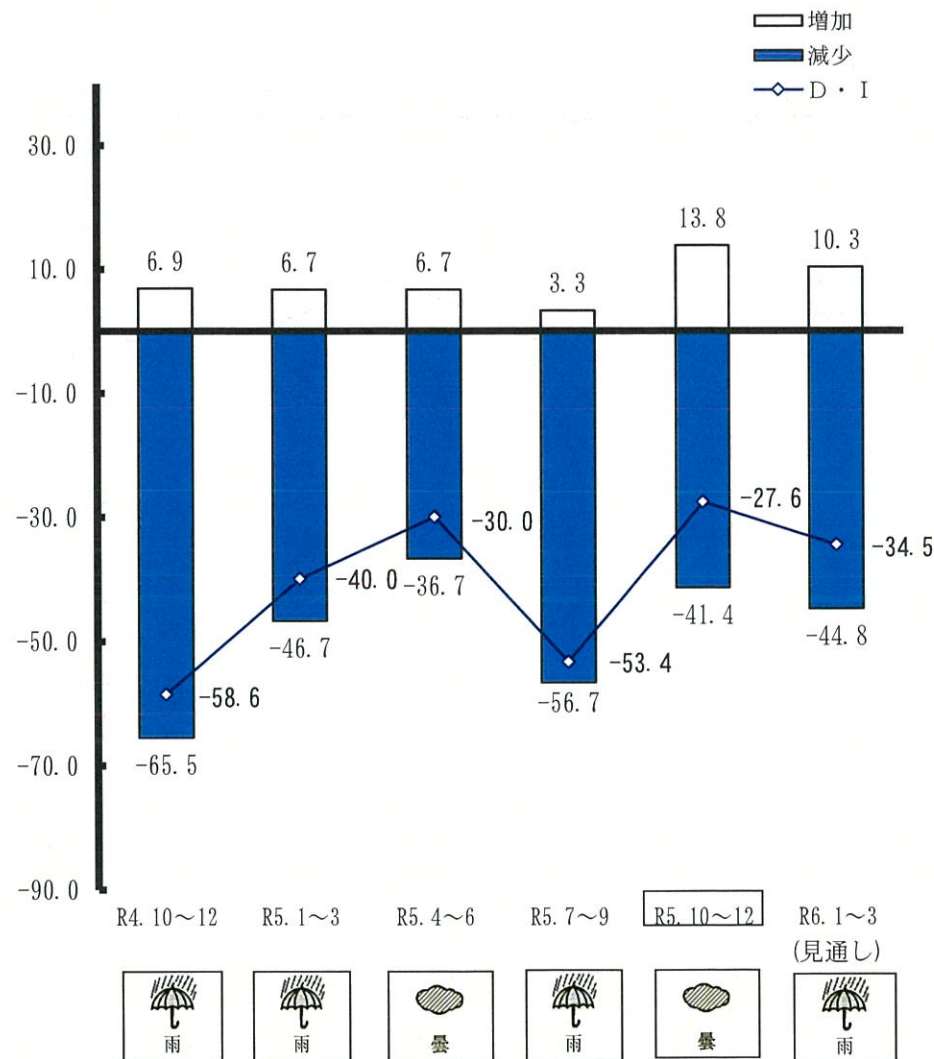
<来期見通し>



雨

今期は、採算が改善した企業の割合は10.5ポイント増加し、採算が悪化した企業の割合が15.3ポイントの大幅な減少となったことから、採算D・Iは25.8ポイントの上昇となり、△27.6まで改善しました。

来期は、採算の改善を予想する企業が減少に転じ、採算の悪化を予想する企業が増加となることから、採算D・Iは、悪化に転じ、景況天気図も曇りから雨へと変化することが予想されています。

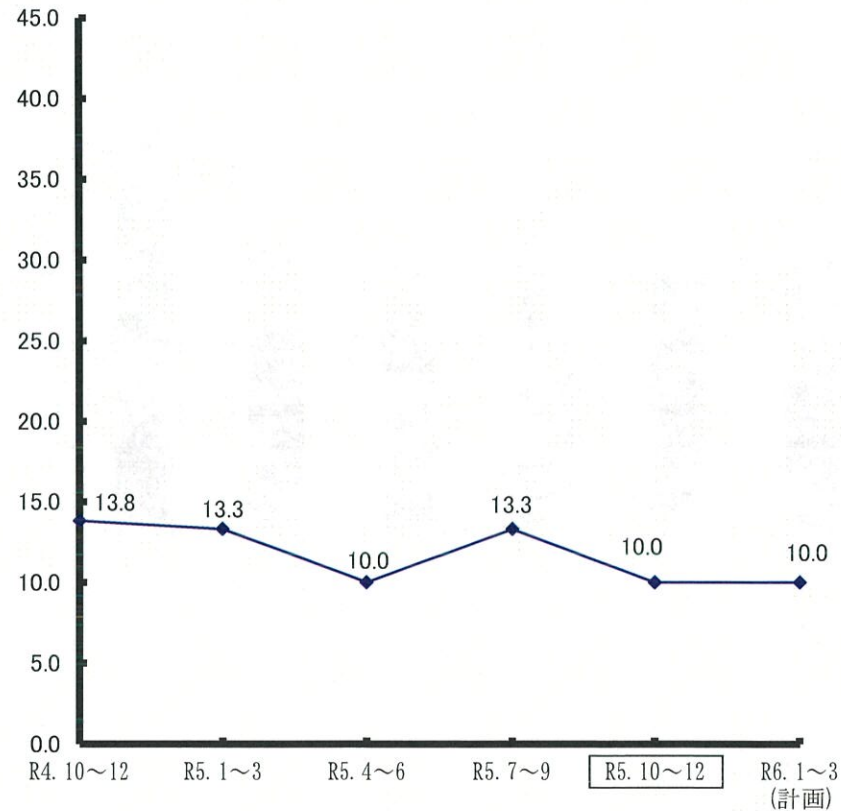


製造業の推移

設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より減少し、10.0にとどまっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルにとどまることが予想されています。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

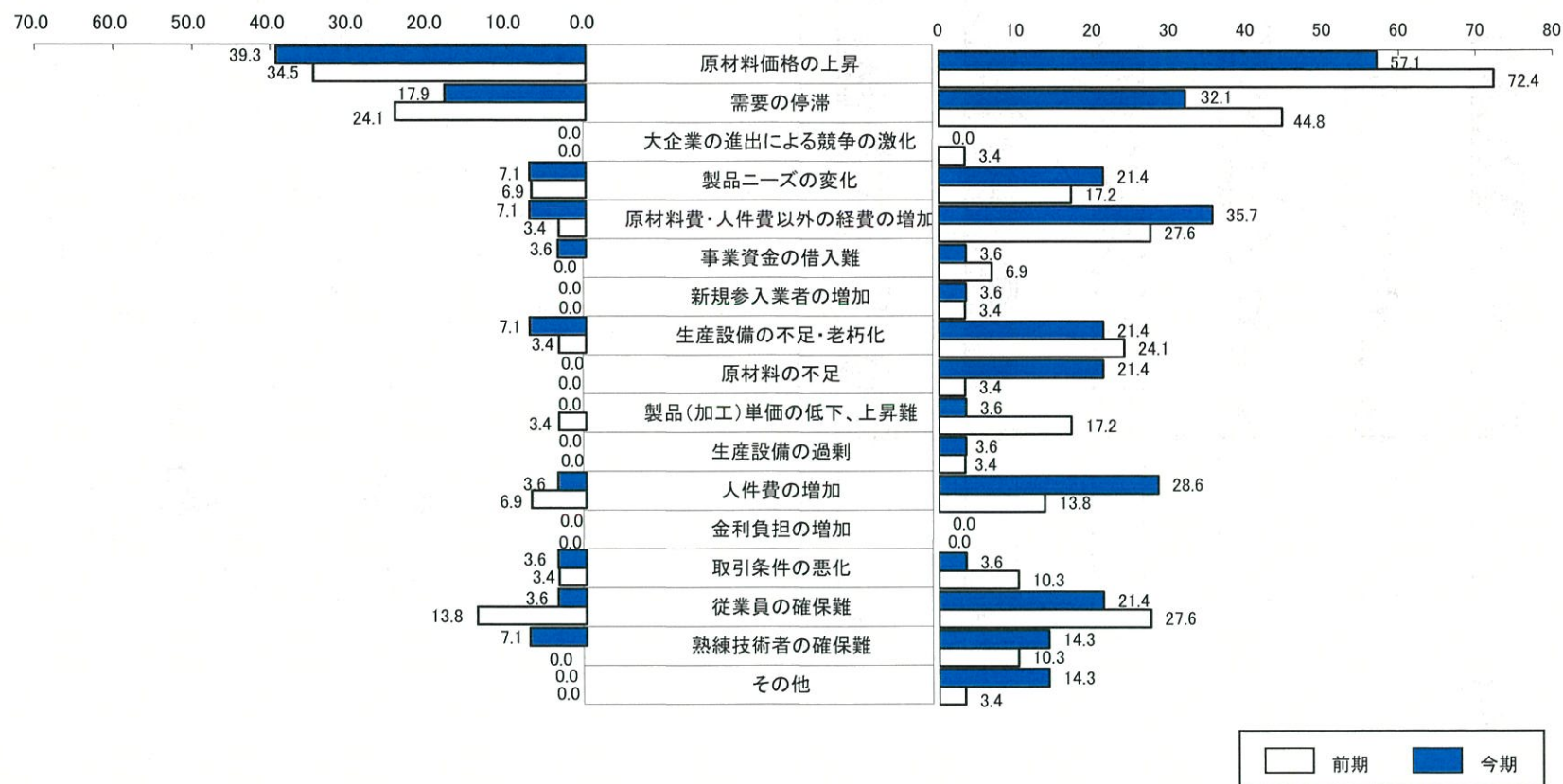
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛:%)



建設業の推移

売上高

<今 期>



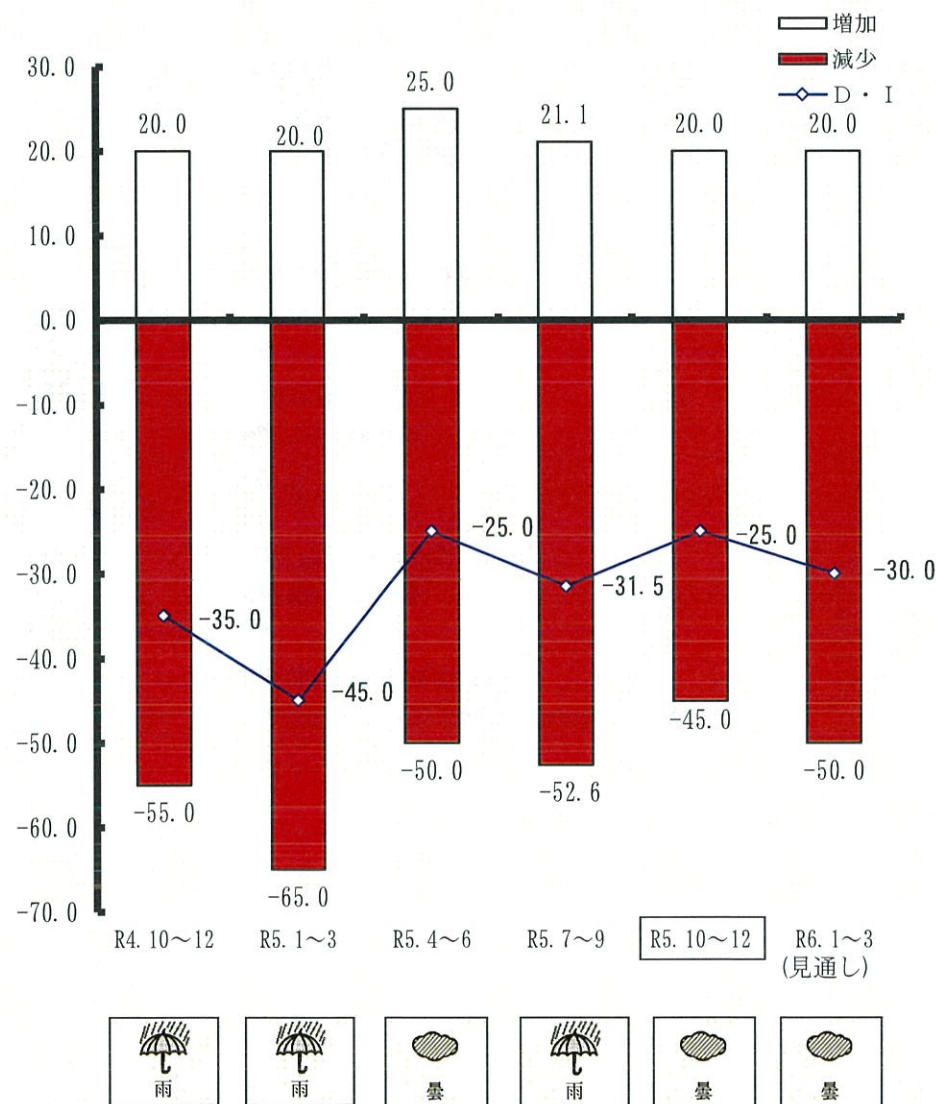
<来期見通し>



前期悪化に転じていた建設業の売上高 D・I は、再び改善に転じています。今期は、売上高が増加した企業割合が 1.1 ポイント減少したものの、売上高が減少した企業割合が 7.6 ポイントの減少となったため、売上高 D・I は増加に転じ、△25.0 まで回復して景況天気図も雨から曇へと変化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業の割合が増加することが見込まれることから、売上高 D・I は再び悪化することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

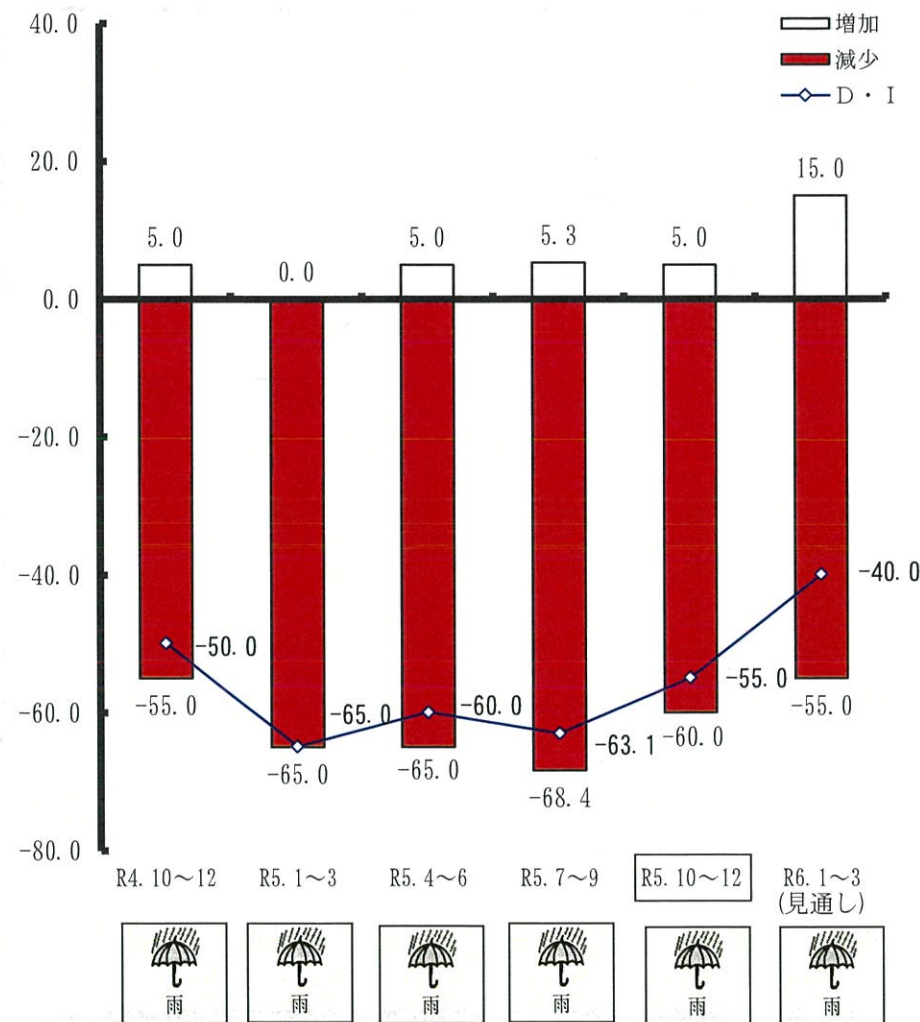
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、ほぼ前期と横ばいにとどまったものの、採算の悪化を挙げた企業の割合が減少したため、採算D・Iは8.1ポイント上昇しましたが、依然として△55.0の低いレベルで推移しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が大きく増加し、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは大幅に改善することが予想されています。



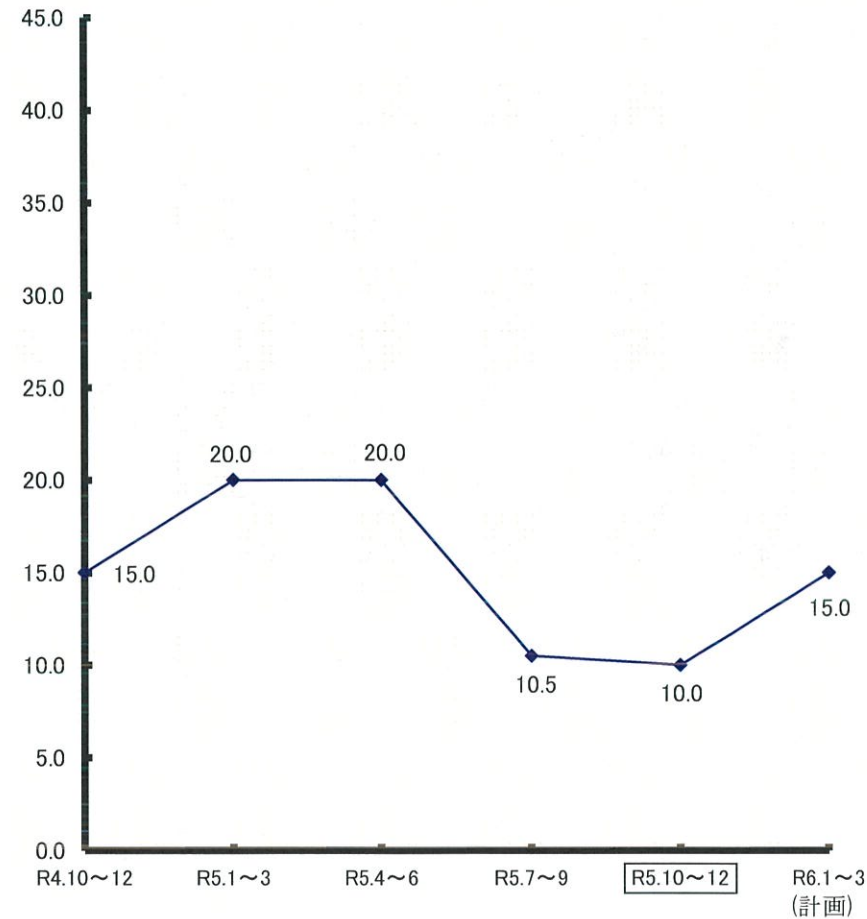
建設業の推移

設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期とほぼ同じレベルの10.0にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は増加し、15.0程度となることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



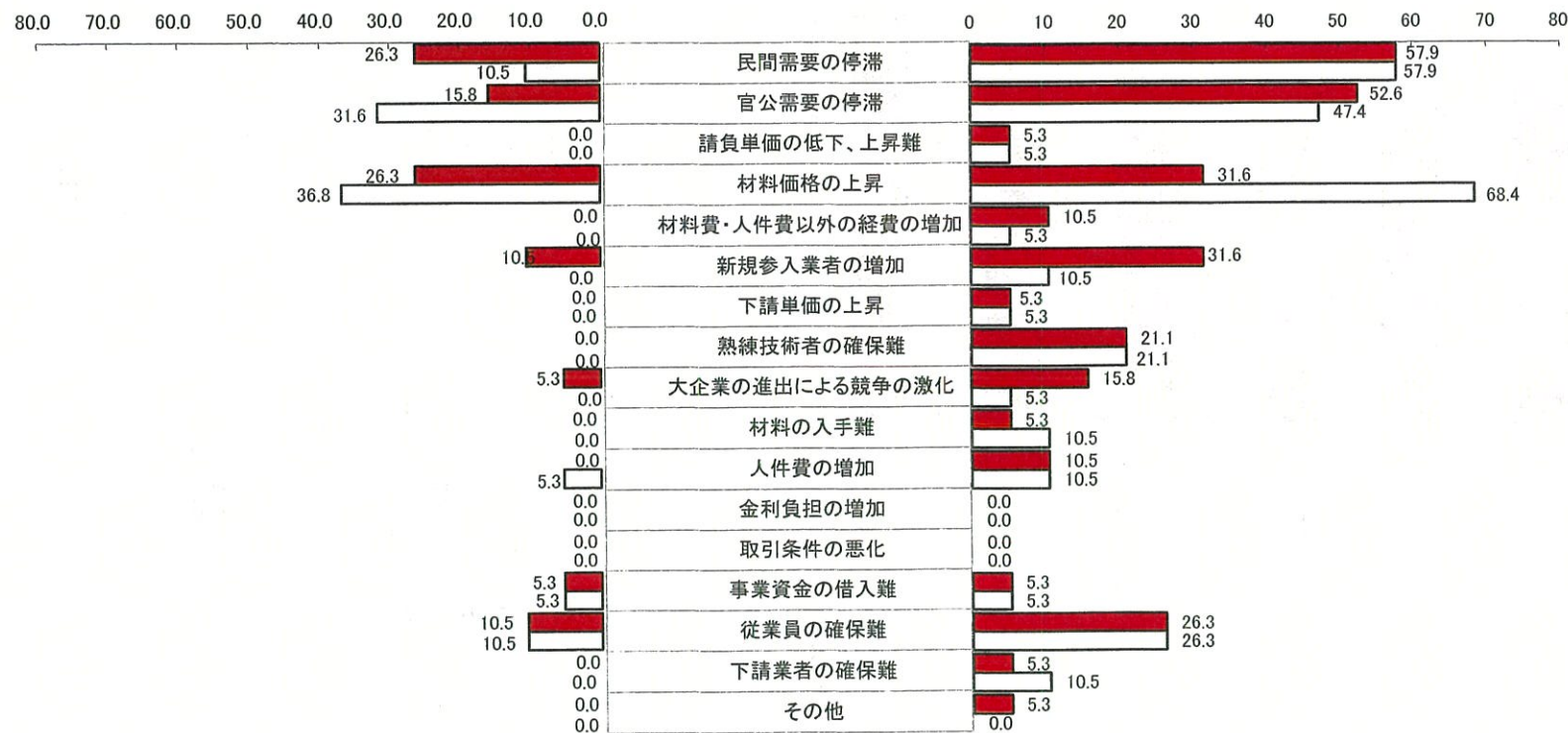
経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点 (目盛: %)



□ 前期 ■ 今期

小 売 業 の 推 移

売 上 高

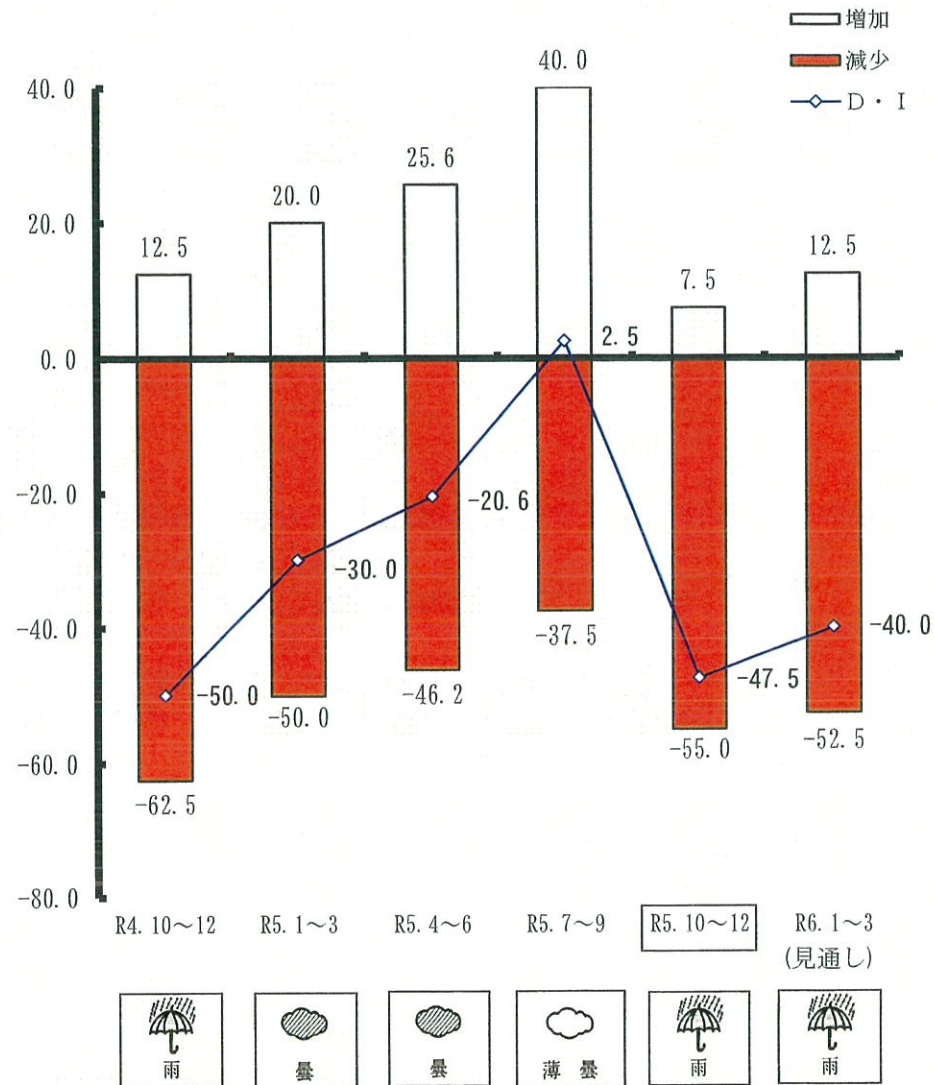
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が大幅に減少し、売上高減少企業の割合が増加したことにより、売上高D・Iは50.0ポイントの大幅な減少となり、プラス域から再びマイナス域へと急落して△47.5まで悪化しました。景況天気図も薄曇から雨へと変化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が増加し、売上高減少を予想する企業割合が減少することが見込まれるため、売上高D・Iは再び改善に転じるものの、増加幅は小さく、依然として低いレベルにとどまる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

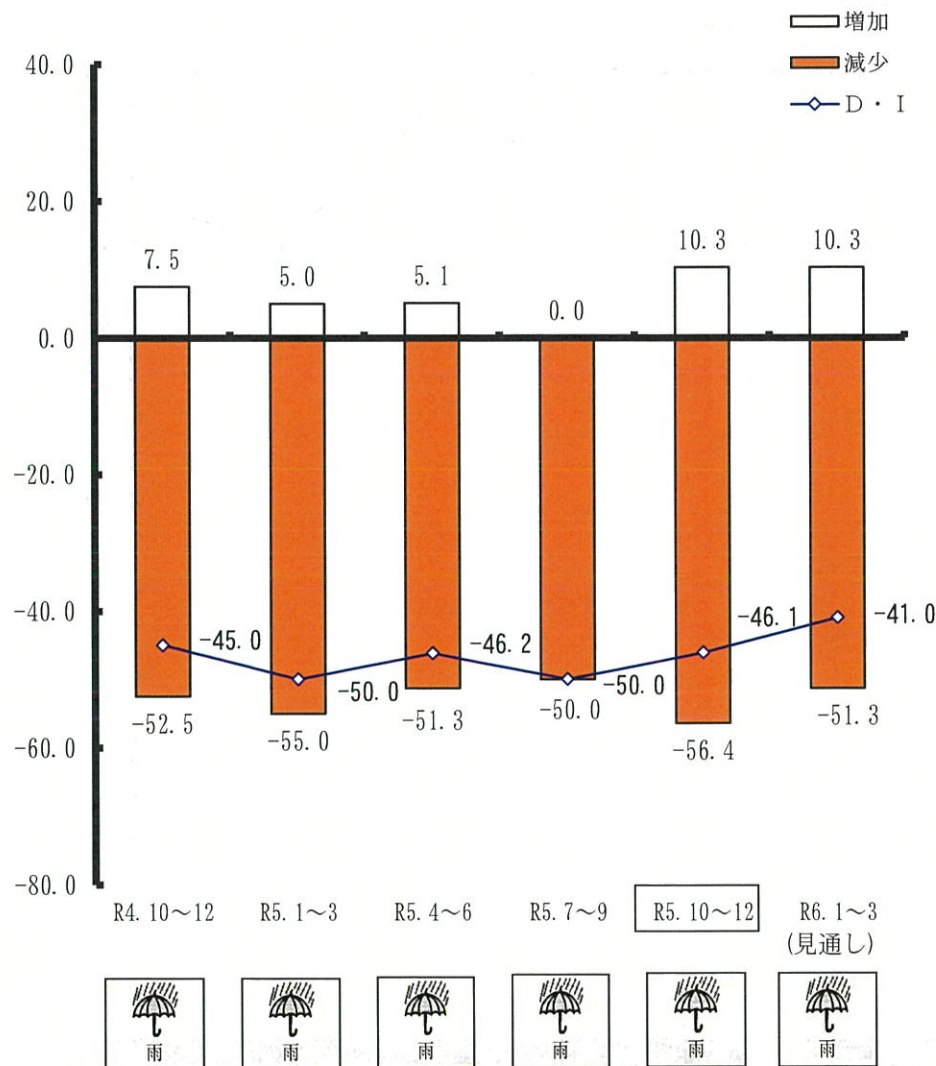
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合は増加したものの、採算が悪化した企業割合が6.4ポイントの増加となったため、採算D・Iは3.9ポイントの増加にとどまりました。△46.1となり、依然として低い水準にとどまっています。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期と同じレベルとなるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは引き続き改善する見通しです。

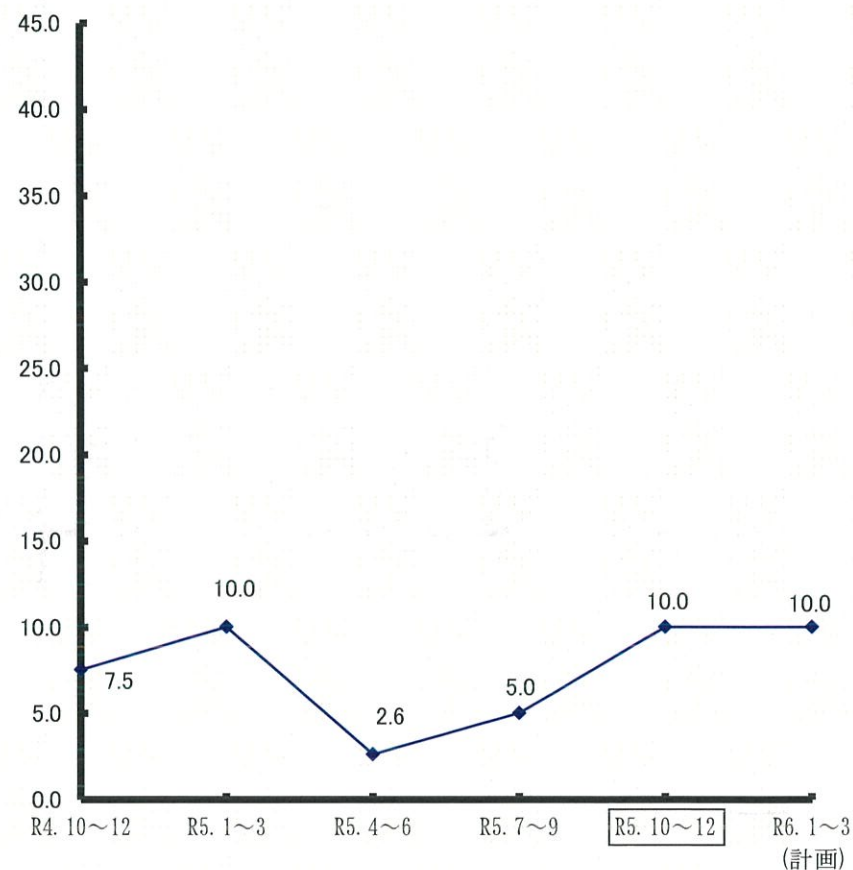


小 売 業 の 推 移

設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期に引続き増加して10.0となっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同じレベルにとどまる見通しです。



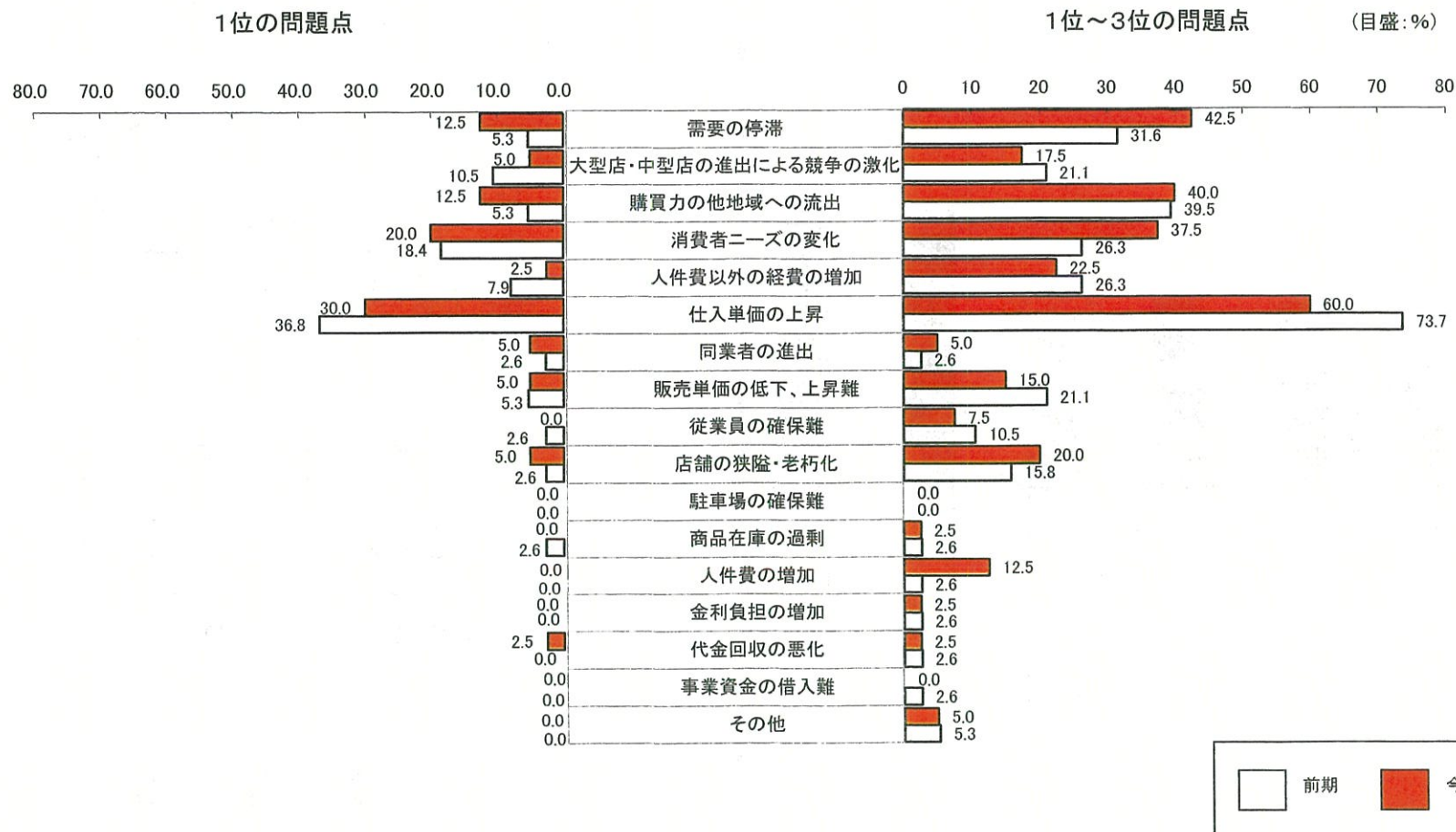
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

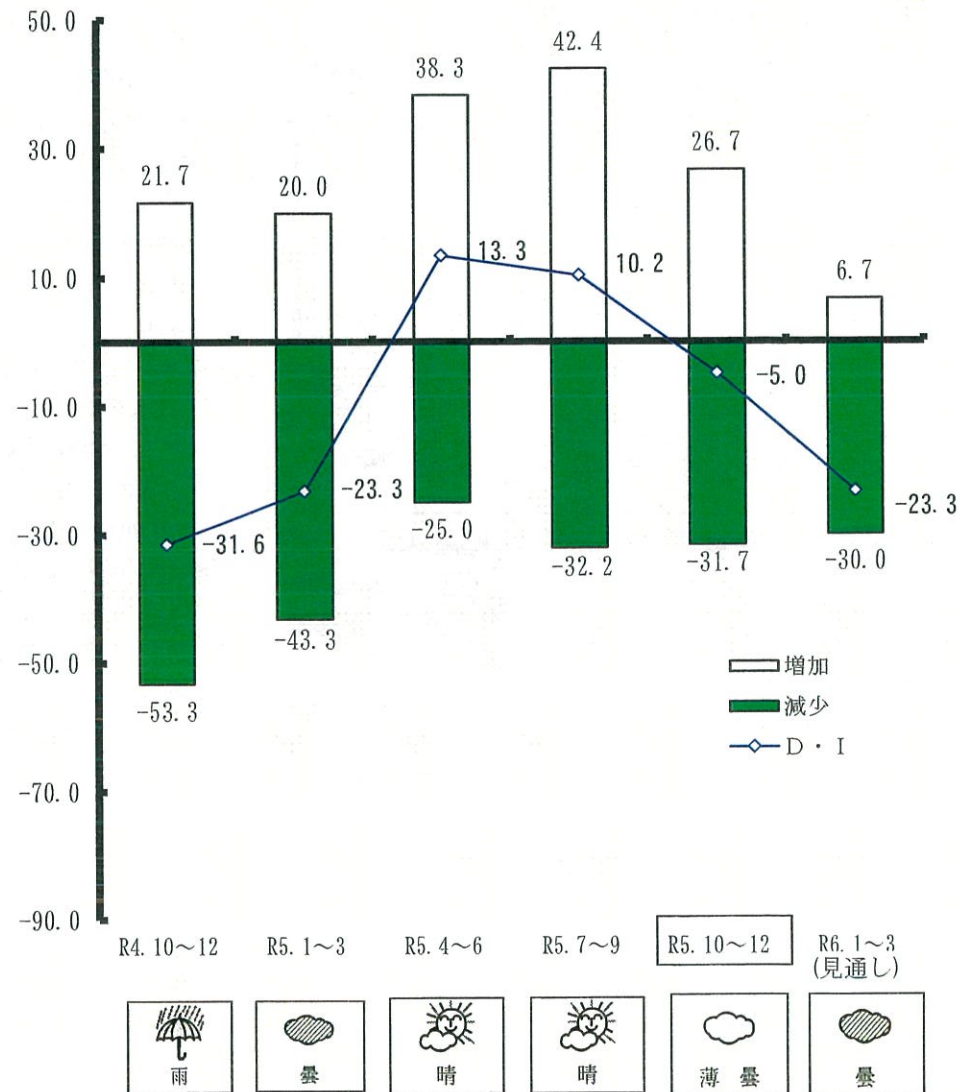
<今 期>

<来期見通し>



2期連続してプラス域を維持していた売上高D・Iは、今期は、悪化に転じました。売上高減少企業の割合は前期とほぼ横ばいとなったものの、売上高増加企業の割合が15.7ポイント減少したことにより、売上高D・Iは15.2ポイント低下して△5.0となりました。景況天気図も晴から薄曇へと変化しました。

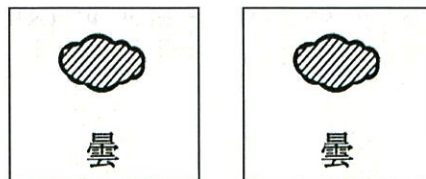
来期は、売上高増加を予想する企業の割合が引続き減少し、売上高減少を予想する企業割合も今期と同じレベルとなることから、売上高D・Iは引き続き悪化し、マイナス幅を拡大することが予想されています。



サービス業の推移

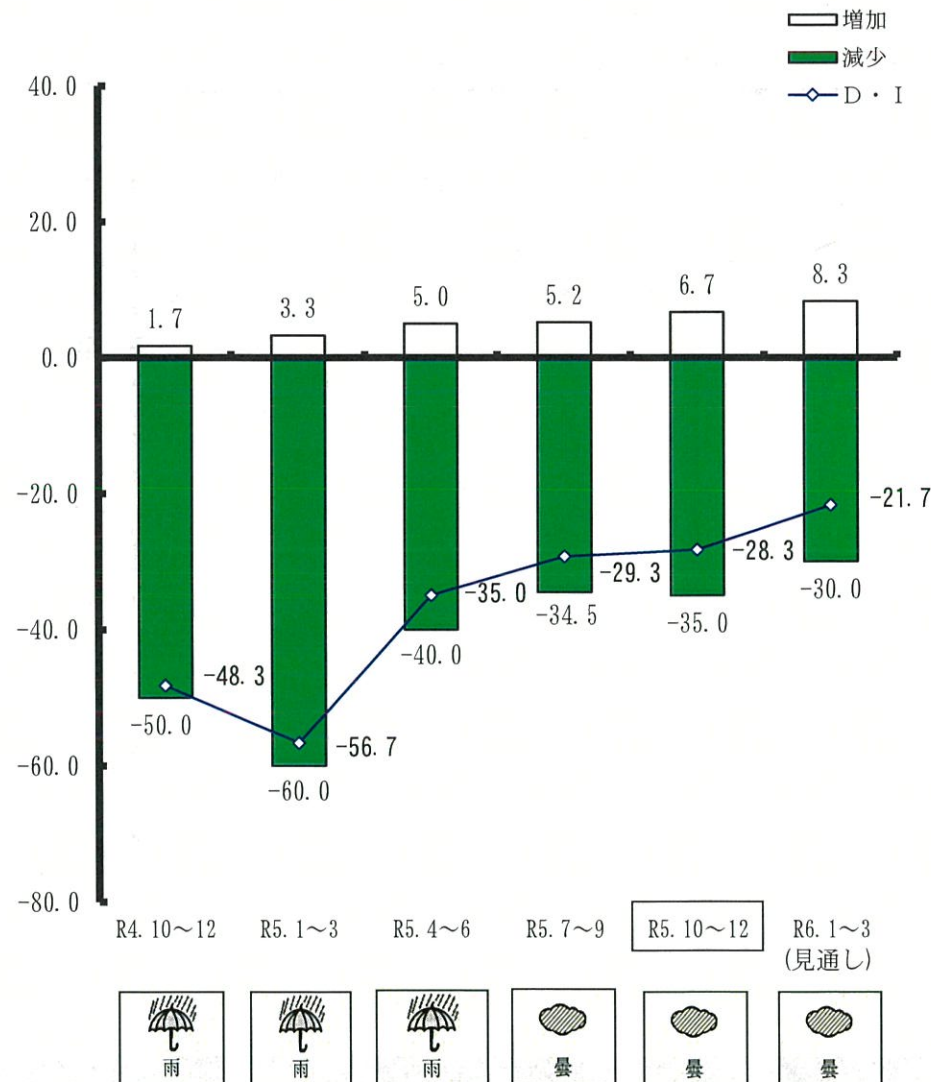
採算

<今 期> <来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が1.5ポイント増加したものの、採算が悪化した企業割合が僅かながら増加したことにより、採算D・Iは僅かな上昇にとどまり、△28.3となりました。

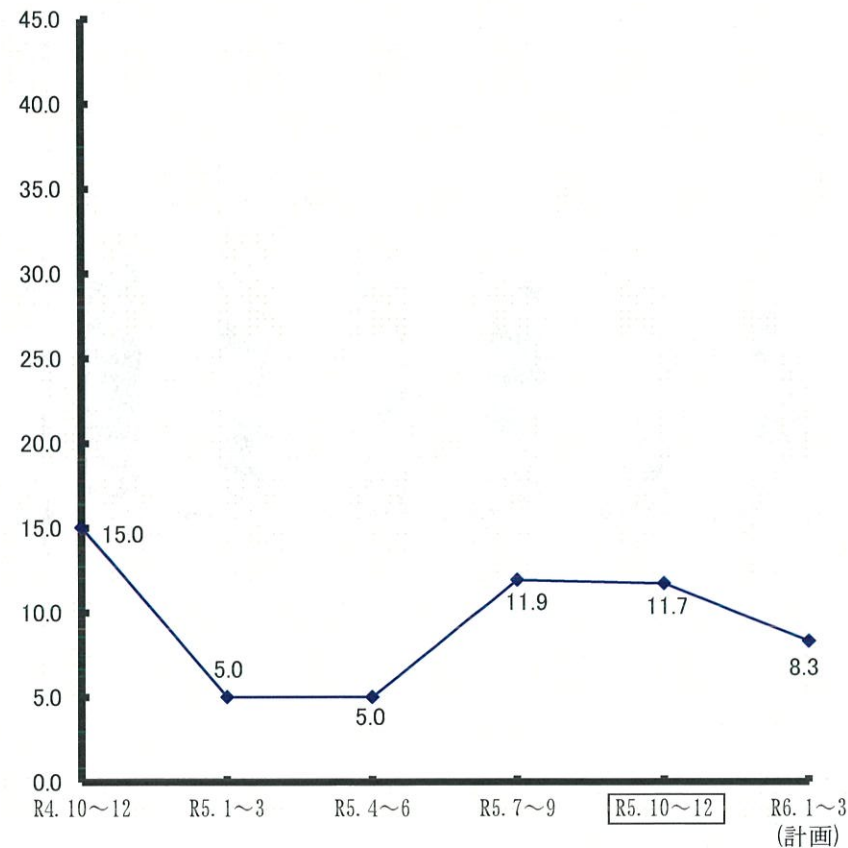
来期は、採算の改善を予想する企業割合が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が今期に引続き減少することから、採算D・Iは上昇傾向が続き、△21.7まで改善する見通しです。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合はほぼ前期と横ばいの11.7にとどまっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じ、8.3程度にとどまる見通しです。



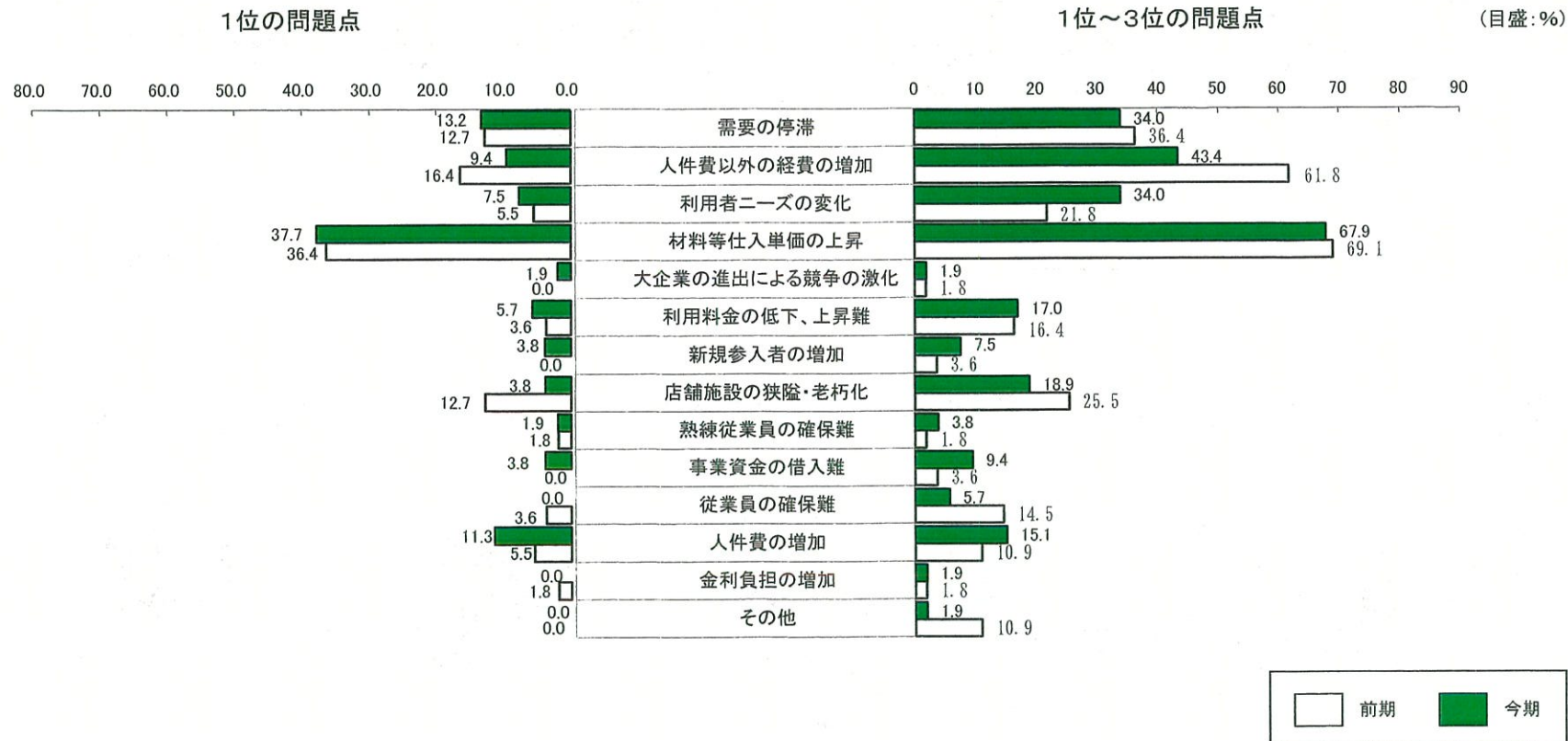
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

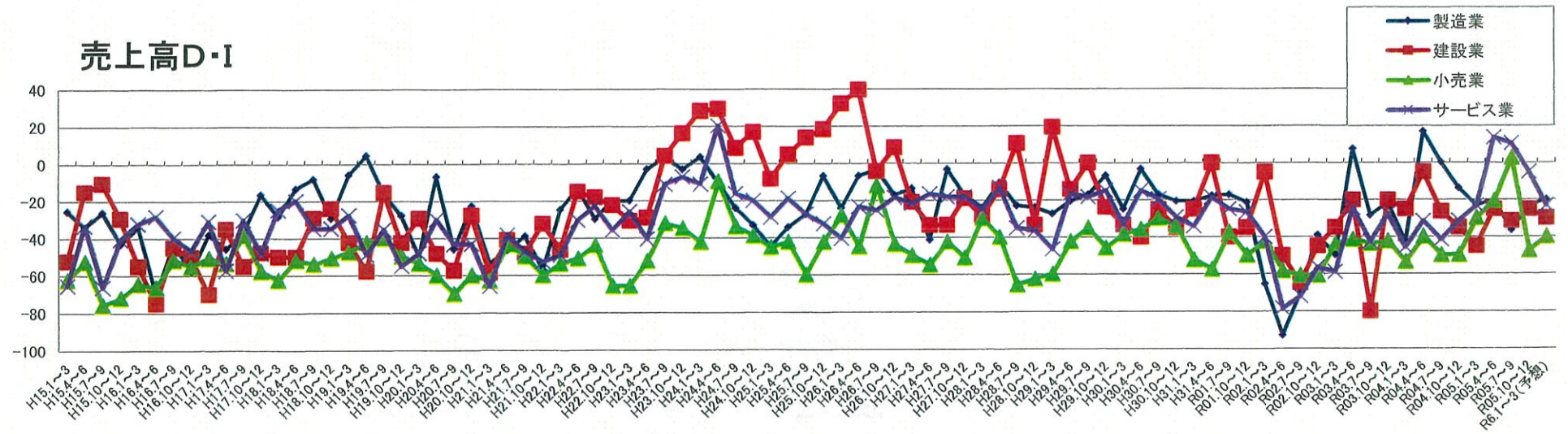
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

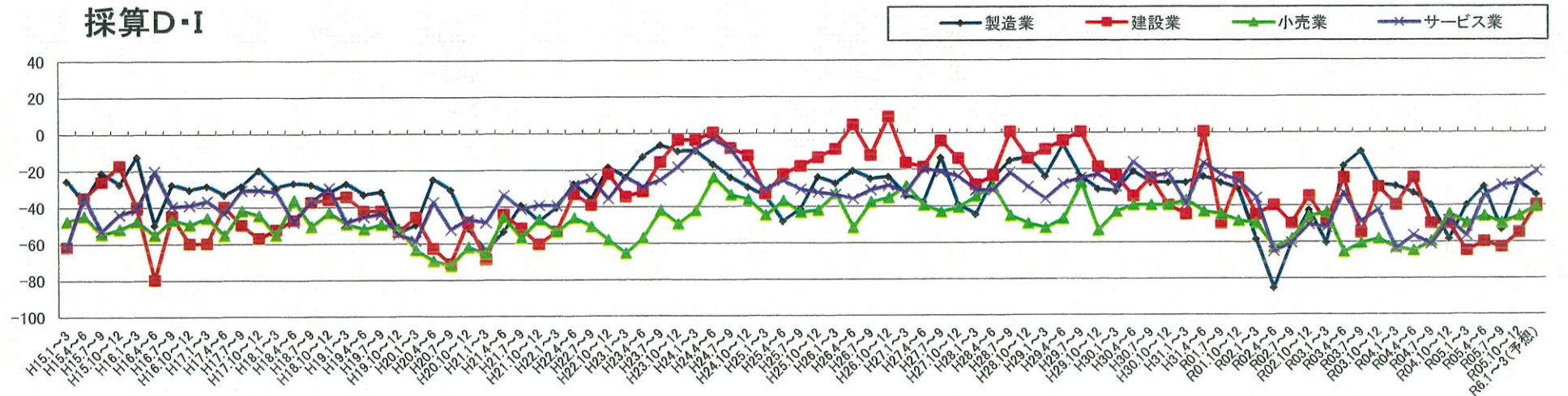


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 遠野、陸前高田、雫石、岩手町、紫波町
(商工会名) 西和賀、田野畑村、普代、軽米町、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調査対象期間 令和5年10月～12月を対象とし、調査時点は令和5年11月15日としました。
3. 調査方法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建設業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。

